

1. 学校の教育目標

- <外部>地域社会の未来を創るワクワク感を共有しよう。
- <内部>相手の発信をしっかりと受け止めて、次に繋がる発信をしよう。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

具体的方法

- <外部>・学生と共にSNSを活用して学校の様子を発信し、自分たちの学校の強みを再確認する。
 - 出張講義、外部セミナー等を通して、専門職や学校の魅力をわかりやすく発信し、理解を得る。
- <内部>・学生の課題や自分の指導上の困難さを積極的に発信する。さらに学科内外との協力により、学生が必要とする適切な指導を行えるように取り組む。
 - 学生との交流を教職員から積極的に行い、学生の様子や変化をキャッチする。
 - 相手の立場になって発信する。また、互いの認識の違いを受け止め、自らの言動を振り返る。
 - DXの導入、活用を学校全体で推し進める。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) . 教育理念・目標 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価項目	評価区分	
・学校の理念・目的・育人人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	④ 3 2 1	・学生便覧、パンフレット、ホームページに記載 ・オリエンテーション、授業など様々な機会に周知 ・感染対策を十分にとり、入学式卒業式を開催した。また、入学式後の保護者説明会も開催し、本校の教育目標及び方針について説明することができた。 ・9月にZoomによるオンライン保護者会を開催した。 ・学生及び保護者に対して随時個別面談を行っている。 ・感染対策をとり、5月にサンビ祭としてイベントを開催した。また、10月には陽の里まつりとしてリハビリセンター白鳥の利用者を学校に招待し、学生が日頃の学習の成果を掲示して楽しんでいただいた。どちらも従来の実施方法にとらわれず、コロナ禍において実現可能な方法で行事を行うことができた。
・学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1	
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1	
・学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1	
・各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1	

(2) . 学校運営

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1	・毎年、法人として事業計画を立てて、それに沿って運営している。諸規定により、意思決定機能が明確化されている ・業界とは教育課程編成委員会と学校関係者評価委員会及び各業界団体への参加により、よりよい活動を目指している。 ・学校評価については、2020年度に学則記載記載した。 ・新型コロナウイルス感染拡大により今年も学校祭は開催できなかったものの、例年行ってきた地域の方による狂俳指導を対面で行うことができた。 ・教育活動の情報活動は、ホームページ、パンフレット、サンビだよりを通して行っている。 ・学校概要、前年度自己評価・学校評価を学校HPにおいて公表している。 ・実務者研修においてはITツールを用いた業務効率化を進めている。 また、2023年度からの教務事務支援システム稼働に向けて準備中である。学校単位、各学科単位でのインスタグラムを運営し、学校の日頃の取り組みを学校内外に伝える取り組みを行っている。DX化により業務効率化を推し進め、電子黒板・スマートグラス・3D教材の活用等による教育の充実化を図る。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1	
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1	
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1	
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1	
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1	
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1	
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1	

(3) .教育活動

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④3 2 1	<p>・教育内容、到達レベルについては学生便覧pp.6-9、およびシラバスにより明確にしている。また、学年の特性を踏まえ、授業時間の追加、補講等を実施し、到達目標レベルまで、引き上げるよう工夫している。また、見直しなどは、教職員の振り返り、学生面談のみならず学生アンケートを実施し、学生のニーズをも取り入れ実施している。また、教育課程編成会議にて説明。</p> <p>リハビリセンター白鳥の利用者評価・リハビリを定期的に行い、その経験を学生への実践教育に活用することができた。</p> <p>・国語力に課題のある学生に対し、すべての学科において個別で評価し、その対応を行っているが、学校全体として国語力向上に向けた体制を整備できていない。</p> <p>・留学生の日本語教育および本校教員への助言を元中学校長で、在外日本語学校長経験者に依頼した。また、留学生への授業に他学科の教員も参加し、様々な視点から指導を行えるよう取り組んでいる。</p> <p>・各学科で研究授業を行い、他教員が見学し、その後意見交換などを行っている。</p> <p>・授業評価については、他教員が見学する形で実施している。</p> <p>・学生情報共有システムを活用し、日頃から学生情報の共有につとめ、効率的な指導を行えるようにしていく。</p> <p>・学生便覧p.3学則第16～18条、p.10学則施行細則第2条、第5条～18条により明確にし、成績判定会議（運営会議）にて協議の上、校長が認定する。</p>
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④3 2 1	
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④3 2 1	
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④3 2 1	
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④3 2 1	
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④3 2 1	
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④3 2 1	
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④3 2 1	
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④3 2 1	
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④3 2 1	
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④3 2 1	
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4③2 1	
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4③2 1	
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4③2 1	

(4) .学修成果

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
・就職率の向上が図られているか	④3 2 1	<p>・就職率100%となっている。</p> <p>・ST学科の国家試験の合格率が低下した。</p> <p>・入試結果の検討を行い、クラス及び個人への国語基礎力向上への工夫、学生面談、保護者との連携を行い退学率の低下に取り組んでいる。</p> <p>・卒業生の状況を把握してはいる。就労、在宅分野で活躍しているものが多い。</p> <p>・活躍する卒業生にオープンキャンパスなどで話をしてもらい機会をもち、学校教育へフィードバックとして捉えていく。</p>
・資格取得率の向上が図られているか	4③2 1	
・退学率の低減が図られているか	4③2 1	
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④3 2 1	
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	④3 2 1	

(5) . 学生支援

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	<p>・学籍簿、個人記録、健康記録を整理している。またその情報をITツールによって一元化したシステムを2023年度から稼働予定である。担任制を敷いているが、あくまでも窓口と考え、学生がいつでもだれにでも相談できるようにしている。</p> <p>・信頼できる不動産業者にアパート情報を提供していただいている</p> <p>・入学式後の保護者懇談会、9月のオンライン開催による保護者会・個別面談を開催するなど、保護者との連携を務めている。</p> <p>・卒業生への支援体制としてはないが、相談に来ることが多く、積極的に対応している。</p> <p>・NPO法人と連携して居住支援を行っている。</p> <p>・感染予防対策を十分に行い、7月と2月にリハビリセンター白鳥でインターンシップを実施することができた。高校などに医療福祉職の紹介や出張講義を行っており、より多くの学生が福祉に関心を持つように工夫している。</p> <p>・県作業療法士会と連携し、卒業前に職能団体の活動意義について説明する機会を持ち、卒後の生涯学習への意識を高めるように工夫している。</p>
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1	
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1	
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	
・学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1	
・保護者と適切に連携しているか	4 ③ 2 1	
・卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1	
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1	
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④ 3 2 1	

(6) . 教育環境

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 ③ 2 1	<p>・全館Wi-Fi整備し、学生がいつでも情報を入手し、授業でも活用できる環境を整えている。</p> <p>・教育機器（PC）の計画的な更新を行っている。</p> <p>全学科・学年の教室に電子黒板を設置し、授業や学生の自習に活用されている。また、VRによる解剖学学習システムを学生の自学自習に活用できるようにしているが、学生の利用率はまだ低い状況にある。</p> <p>・感染症拡大の影響で多くの実習施設が受け入れ中止となる中、法人関連施設の協力を得て実習施設を確保し、極力学内実習の割合の低下をはかった。</p> <p>・実習可能となった場合でも、コロナ禍のため対面で目標共有、学生情報の共有ができず、対応に苦慮したことがあった。</p> <p>・消火訓練では留学生が消火器使用未体験のため、水を使ったデモ用消火器を使用し消火訓練を実施した。日本での生活を送る上で大切な経験を得る機会を提供できた。</p> <p>・防災マニュアルを早急に整備していく。</p>
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1	
・防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1	

(7) . 学生の受入れ募集

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
・学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1	<p>・学生募集は、誇大表現することなく適正に行っているが、教育成果を伝えきれていない。学納金は、募集要項に記載したもの以外徴収していない。学納金については全国的にみて、最も安い学校に位置しているが、その妥当性を検討する必要がある。</p> <p>・2024年度より、作業療法学科・言語聴覚学科において教育充実費として年間5万円ずつ徴収する。保護者会などを通じて説明を行っていく。</p>
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1	
・学納金は妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1	

(8) . 財務

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 ③ 2 1	<p>・法人全体では財務基盤は安定しており、現在はその力を借りて運営している。</p> <p>・法人として法令に従い情報公開している。</p> <p>・学生への資料提供費用の学校負担基準が曖昧であった。</p> <p>・学校全体としての充足率は高まりつつあるものの、定員を満たしていない。</p> <p>・教員の経費に関する意識を高めると共に、数年で、損益分岐点の学生数となるよう努力を重ねる。</p> <p>・光熱費を中心に節約に努める</p>
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1	
・財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1	
・財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1	

(9) .法令等の遵守

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検表で示すように法令を遵守適性に運営している。 個人情報の中でも、成績管理についてはPC上で保存していない。 自己評価については、専修学校学校評価ガイドラインに沿って実施し、問題点の改善に努めてきた。自己点検票は学校HP上で公表を行っている。 システム運用における権限設定、情報の活用ルールを明確に定める。
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 ③ 2 1	
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1	
・自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1	

(10) .社会貢献・地域貢献

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により、例年行っているバスツアー、NPO法人主催の健康教室や、自主的な子育て講座などを実施することができなかった。しかしながら白鳥地区の方から、対面で狂俳の創作を指導していただき、地域との連携をもつことができた。また、リハビリセンター白鳥において高校生対象のインターンシップを開催することができた。10月の陽の里まつりではリハビリセンター白鳥の利用者に来校していただき、学生が日頃の学びを活かした掲示を行うことで地域貢献を行った。
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で今年度も引き続き全くといっていいほど募集もなく、また積極的な参加も促すことができなかった。
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> 社会人からの学生に対して離職者等委託訓練実施事業を実施している。 揖斐川町と連携し、医療・福祉に関心を持つ地域の高校生（揖斐高校生及び池田高校生）のためのワークショップに参画、参加した。本校からは6人の学生が参加しうち3人は司会を担当し、本校で医療・福祉を学ぶ意義を発信した。 職業訓練生募集について、ハローワーク及び県事務所への継続的な訪問と併せ、学校全体で検討を行って対応した。その結果応募者は前年度を上回った。 12月4日には養老孟司氏をお迎えし、介護の未来について人とロボットとの関係について講演していただいた。約200名ほどの参加があり、介護の現場や一般企業・県庁職員など幅広い方々が参加された。同時に介護ロボット・IT機器展を開催し、6社からの出展があった。また、その様子を動画で撮影し、Youtubeで公開している。 2023年9月25日に岐阜専修学校各種学校連合会による講師派遣事業として、平林景氏をお招きする。

(11) .国際交流

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍によって従来の日本語学校在籍者からの募集だけで応募者を確保することが困難だった。その中で多面的な募集ルートを作った。直接海外からの入学、在校生や卒業生からの紹介、受験生同士の情報交換などによって受験するケースが多くあった。 3月16日現在、14名の留学生の入学が予定されている。 日本語学校に留学し卒業後に特定技能実習生として県内の介護施設で就労していた者が、在留資格（留学）を獲得し、本校に入学する予定である。 留学生の生活支援、学習支援について、必要な支援の内容と料を明確にし、それぞれについて達成目標と方法、期日を教職員で共有することによって着実な業務遂行に務める。
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	④ 3 2 1	
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④ 3 2 1	
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	該当せず	<ul style="list-style-type: none"> 今年度末18名の留学生が卒業した。今年も日本語と英語の卒業証書を全卒業生に手渡した。 留学生は入学時、納税の義務をはじめとする日本のルールについて無知であったが、その必要性を理解しおおよそ自分で対応できるようになった。 留学生に対する国家試験対策を全学科体制で実施。日本語学校での成績を基にすると、獲得点数が高い学生が多かった。 本校に入学してから実施した日本語能力試験（模試）の点数と国家試験模試の点数の相関から、学生の状況の分析を行った。 国試再受験となる既卒生に対し、Zoomを活用した指導や模擬試験送付などで対応を行った。 在校生が国試合格に対する認識を高めるため、長期休暇後に模試を実施する。 国試に対する既卒生のモチベーション維持のため、学校と施設間での協力体制を構築する。